

海外論文紹介

八代 英子 *Eiko Yashiro*

千葉大学医学部附属病院麻酔・疼痛・緩和医療科

藤澤 陽子 *Yoko Fujisawa*

千葉大学医学部附属病院看護部

田口奈津子 *Natsuko Taguchi*

千葉大学大学院医学研究院臨床腫瘍学准教授

終末期がん患者における積極的ケアと緩和ケアの 医療費との関係：日本の診療報酬明細書を用いた横断的研究

Morishima T, Lee J, Otsubo T, et al :

Association of healthcare expenditures with aggressive versus palliative care for cancer patients at the end of life ; a cross-sectional study using claims data in Japan

Int J Qual Health Care 26 : 79-86, 2014

背景

わが国では、急速な高齢化とともに医療費の著しい増加が認められている。エンドオブライフ (EOL) ケアは、患者および保険者の経済的負担となっており、医療費のなかでもEOLケアに関わる部分がコスト抑制の標的とされることが多い。がんは多くの国で死亡率が高い疾患であるが、がんの種類に関わらずがん患者の医療費について調べられた研究は少なく、さまざまな状況で終末期がん患者の治療にかかるEOLケアの医療費の決定因子はほとんど知られていないため、包括的な研究が必要である。また、積極的治療は必ずしも患者のよいQOLに一致しない。積極的ケアを緩和ケアに置き換えることでQOLを改善し、医療資源の利用を減らすかもしれないが、がん患者におけるEOLケアの種類と医療費の関係はあまり知られていない。EOLにおける医療費とケアの関係性について理解することで、政策立案者がEOLケアを最適化し医療費を減らす一助になる可能性がある。

目的

日本の終末期がん患者の診療報酬明細書を用いた包括的分析をもとに、積極的ケア、緩和ケアの

指標と医療費の関係を明らかにする。

方法

国民健康保険、後期高齢者医療制度からの診療報酬明細書を用いて横断的後ろ向き研究を行った。少なくとも死亡前3ヵ月の診療報酬明細書が利用できる2009年4月～2010年5月に京都府で死亡した3,323人のがん患者を対象とした。最期の3ヵ月間に病院またはホスピスでEOLケアを受けなかった23人、終末期がん患者が10人より少ない病院でEOLケアを受けた157人のデータは除外し、最終的に3,143人のデータを解析した。

主要評価項目は、診療報酬明細書をマルチレベル一般化線形モデルを用いて解析し、患者、病院、その他の指標とならない手技を調整し、積極的ケアと緩和ケアが人生の最期の3ヵ月にかかる医療費と相関性をもつかどうかとした。

結果

54の病院、3,143人分のデータが得られた。3ヵ月間にかかった患者1人あたりの医療費の中央値は13,030USドルであった。死亡者の多くは75～79歳のグループで、男性の割合が高かった。肺がんが最も多く、次に消化器がんであった。89%